Plan　研究計画

１　学校概要

平成 18 年に静内町と三石町が合併した新ひだか町は、日高振興局管内で最も人口が多く(23,999 人)、大きな商店も存在するため、管内の中心都市的役割を果たしている。

また、サラブレッドの生産、競走馬の故郷、日本屈指の桜の名所「二十間道路桜並木」として有名であり、夏は涼しく、冬は雪が少ない「涼夏少雪の郷」と言われている。

本校は、観光名所である「二十間道路桜並木」に隣接しており、開校 37 年を迎える。昭和 53 年に北海道静内高等学校より分離独立し、日高管内唯一の農業高校として開校した。開校当初は４学科（農業科・畜産科・林業科・生活科）設置していたが、幾度かの学科改編を行い、平成 16 年度入学生より現在の「食品科学科」・「生産科学科」の２学科となり、現在は 166 名の生徒が在籍している。

写真１　本校の航空写真

学　科　名	１年	２年	３年	計
食品科学科	１８	３１	３１	８０
生産科学科	３０	２７	２９	８６
合計	４８	５８	６０	１６６

表１　本校の生徒在籍数（平成２７年度）

「食品科学科」では、生産から加工・販売まで一貫したフードシステムを体系とする学習を展開し、その中で乳牛の飼養管理や加工原材料の栽培管理を行い、農産・畜産加工を展開し、販売している。

「生産科学科」では、日本で唯一の競走馬の繁殖・育成を教育課程に導入し、軽種馬生産の担い手を育成している。他にも草花・野菜の栽培を行い、活用・販売している。

２　研究概要

本校は、平成 26・27 年度の２カ年文部科学省の教育課程研究指定校として、農業の担い手や関連産業に従事する人材育成を目指して教育活動を推進し、職業人に必要な基礎的・基本的な知識、技能の確実な習得や社会の変化に柔軟に対応できる力の育成を目指した教育課程を編成、指導方法の工夫改善に向けた研究を進めてきた。

（１）研究主題

地域農業や地域社会の持続的かつ安定的な発展に寄与する産業人育成に関する研究
～地域教育力を活用した農業教育の指導方法と評価方法等の工夫・改善～

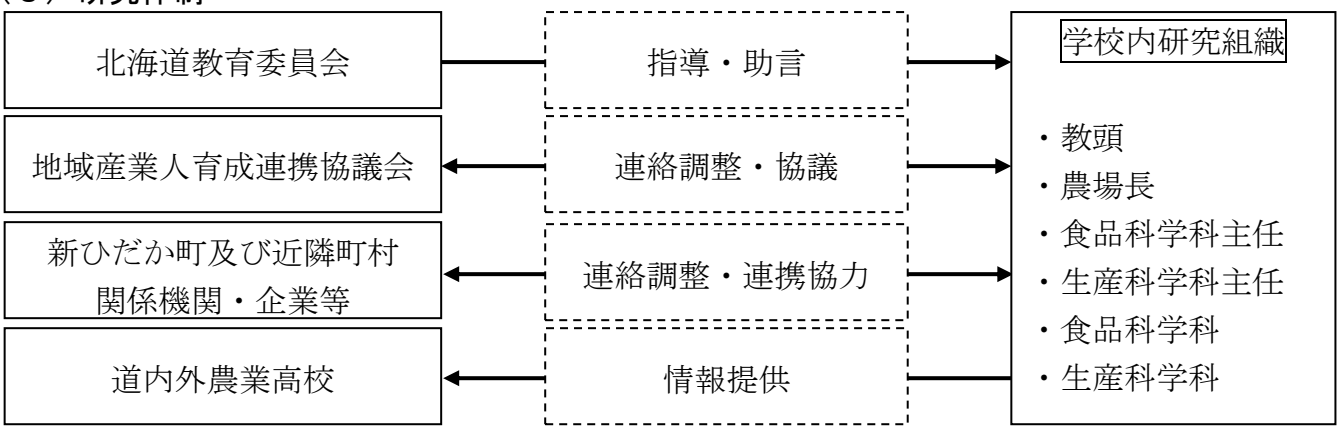
（２）研究主題設定の理由

本校は、食品科学科と生産科学科の２学科を設置しており、農業の担い手や関連産業に従事する人材育成を目指して、教育活動を推進している。

農業高校においては、生徒が、社会の変化等に対応できるよう、職業人として必要な基礎的・基本的な知識、技術及び技能を確実に習得させることが求められており、地域のニーズを踏まえるとともに、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る指導方法や評価方法の工夫・改善に取り組むことなど、教育の質保証を担保するための教育課程を編成することが重要である。

こうしたことから、農業教育の充実と、社会の変化に柔軟に対応できる力の育成を図ることを目指した教育課程の改善・充実についての研究に取り組むため、本研究主題を設定した。

（３）研究体制



（４）研究内容・方法

①　座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫・改善

原則履修科目「農業と環境」における農業学習のガイダンスとなるプロジェクト学習や科目「作物」、「畜産」、「総合実習」等におけるプロジェクト学習の指導方法と評価方法等の工夫・改善を行う。

②　原則履修科目「農業と環境」における学習状況の適切な把握と授業改善

農業技術検定や学力テスト等による学習状況の把握と分析を行うとともに、その結果を踏まえた授業改善を行う。

③　地域関係機関と連携した農業教育の改善

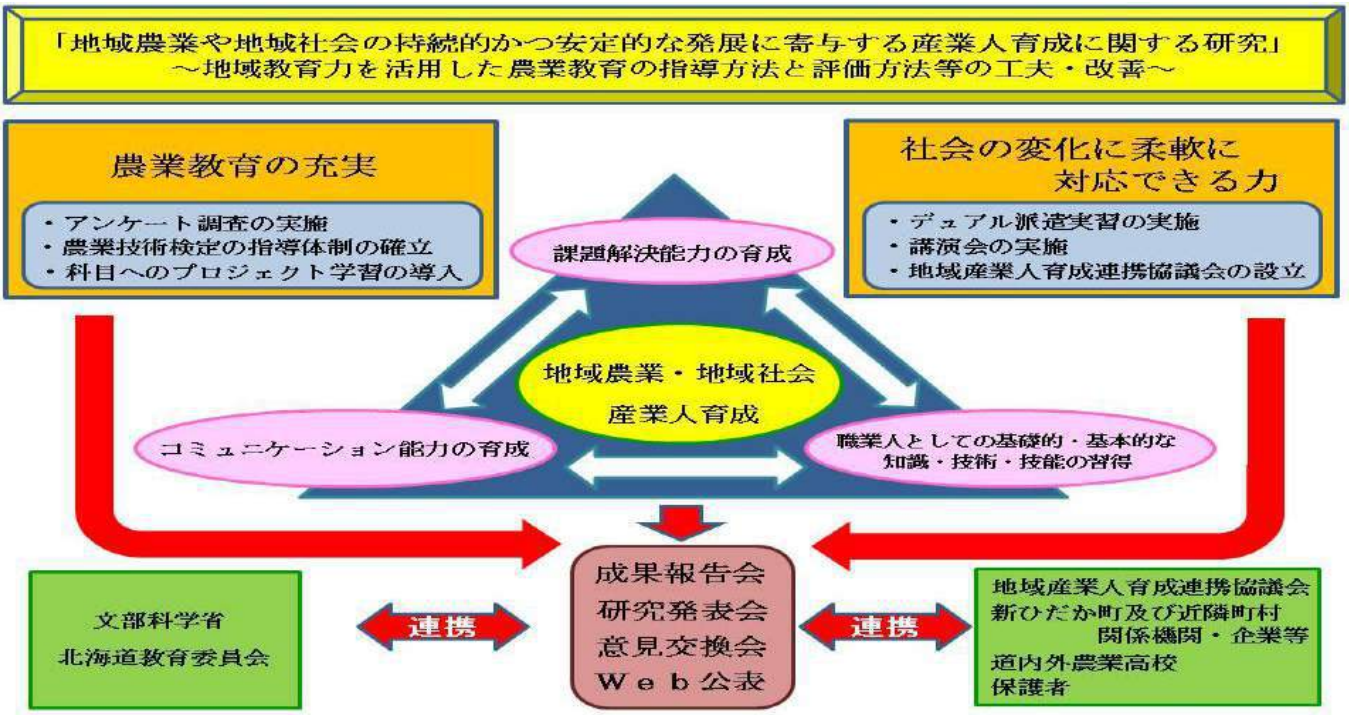
地域農業等の人材の育成・確保のシステムを構築するため、日高振興局、ＪＡ、町、農家・企業等で組織する仮称「デュアルシステム連携協議会」を設置し、地域農業等人材育成を図るための具体的方策を協議し農業教育の改善を行う。

（５）研究計画

平成26年度	４月	・各事業の計画及び日程調整
		・プロジェクト学習の計画発表会の実施
		・農業科における各科目の評価規準の作成
		・教育課程研究指定校事業連絡協議会（文部科学省）への出席
	６月	・研究授業及び合評会、教員研修会（農業教育の指導の在り方）の実施
	７月	・科目「農業と環境」において生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施
	９月	・教員研修会（観点別学習状況の評価の在り方）の実施
	10月	・研究授業及び合評会、教員研修会（座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善）の実施
	11月	・日本農業技術検定に向けた指導体制の改善
	12月	・プロジェクト学習のまとめ・発表会の実施
		・生徒の産業人としての自覚を促す講演会の実施
		・「地域産業人育成連携協議会」設置の準備
		・学校設定科目「デュアル派遣実習」活動成果発表会の開催
		・次年度へ向けた農業科における各科目の評価規準及び年間評価計画の検証と修正
	１月	・科目「農業と環境」及び学校設定科目「デュアル派遣実習」の記録簿の検証と修正
		・科目「農業と環境」において生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施
	２月	・科目「農業と環境」の学力テストの実施
		・教育課程研究指定校事業研究協議会（文部科学省）への出席
	３月	・研究成果の公開（ウェブページ）

平成27年度	４月	・各事業の計画及び日程調整 ・教育課程研究指定校事業連絡協議会（文部科学省）への出席 ・第１回「地域産業人育成連携協議会」総会の実施
	５月	・プロジェクト学習の計画発表会の実施 ・農業科における各科目の評価規準の見直し、改善 ・科目「農業と環境」において生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施
	６月	・生徒の地域農業関連施設等見学会の実施 ・教員研修会（教育課程の見直し検討）の実施
	７月	・科目「農業と環境」の学習実現状況調査と生徒アンケートの実施 ・日本農業技術検定に向けた指導体制の見直し、改善（計画作成）
	８月	・教員研修会（観点別評価の工夫、改善）の実施
	10月	・研究授業及び合評会、教員研修会（座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善）の実施
	11月	・生徒の産業人としての自覚を促す講演会（各学科）の実施 ・プロジェクト学習のまとめ・発表会の実施
	12月	・生徒の産業人としての自覚を促す講演会（全体）の実施 ・第２回「地域産業人育成連携協議会」総会の実施 ・学校設定科目「デュアル派遣実習」活動成果報告会の開催 ・研究授業及び合評会、教員研修会（座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善）の実施
	１月	・科目「農業と環境」において生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施 ・北海道高等学校教育研究大会農業教科部会において研究成果の発表 ・次年度へ向けた農業科における各科目の評価規準及び年間評価計画の検証と修正 ・科目「農業と環境」及び学校設定科目「デュアル派遣実習」の記録簿の検証と修正 ・科目「農業と環境」の学力テストの実施
	２月	・教育課程研究指定校事業研究協議会（文部科学省）への出席 ・研究成果の公開（ウェブページ）
	３月	・研究報告書の作成

（６）研究概略図



Do　研究内容

１　座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫・改善に関する取組

（１）研究授業及び研究協議、教員研修会の実施

①　平成２６年度第１回　公開授業及び研修会

日　　時	平成２６年６月２日
目　　的	①教育課程研究指定校事業推進にあたって ②指導・評価方法の工夫と改善について
公開授業	食品科学科１年『農業と環境』　金　持　達　朗・山　下　　聡
	栽培・飼育のプロジェクト　スイートコーンの間引き
	生産科学科１年『農業と環境』　今　泉　純　一
	カボチャ栽培プロジェクト　播種のはたらきと発芽条件　発芽観察
講　　演 研究協議	北海道教育庁学校教育局高校教育課産業教育指導グループ 指導主事　佐　藤　裕　二

②　平成２６年度第２回目　研修会

日　　時	平成２６年９月３０日
目　　的	観点別評価の在り方について～学習指導と評価の改善・充実～
講　　演 研究協議	北海道教育庁日高教育局教育支援課高等学校教育指導班 主査　俵　　英　生

③　平成２６年度第３回目　公開授業及び研修会

日　　時	平成２６年１０月８日
目　　的	①指導と評価の一体化を図った授業の改善及び評価方法の工夫・改善について ②『デュアル派遣実習』視察
公開授業	食品科学科１年『農業と環境』　金　持　達　朗・山　下　　聡
	農業生産と環境保全の基礎　気象観測データの調査・記録
	生産科学科１年『農業と環境』　今　泉　純　一
	カボチャ栽培プロジェクト　キュアリングと出荷調整
講　　演 研究協議	文部科学省 国立教育政策研究所　教育課程研究センター　教育課程調査官 初等中等教育局　児童生徒課　産業教育振興室　教科調査官 田　畑　淳　一 北海道教育庁学校教育局高校教育課産業教育指導グループ 指導主事　佐　藤　裕　二

④　平成２７年度第１回目　公開授業及び研修会

日　　時	平成２７年１０月８日
目　　的	①指導と評価の一体化を図った授業の改善及び評価方法の工夫・改善について ②指定校事業中間報告について
公開授業	食品科学科１年『農業と環境』　金　持　達　朗・山　下　　聡
	人間生活と農業と環境　スイートコーン栽培のまとめ
	生産科学科１年『農業と環境』　今　泉　純　一
	カボチャ栽培プロジェクト　キュアリングと出荷調整
	食品科学科２年『食品化学』　　佐　藤　麻　美
	タンパク質の構造　タンパク質を構成する物質
	生産科学科２年『馬学』　　塚　田　　新
	軽種馬の生態　筋肉と骨格の働きについて
講　　演 研究協議	北海道教育庁学校教育局高校教育課産業教育指導グループ 指導主事　飛　谷　淳　一

⑤　平成２７年度第２回目　公開授業及び研修会

日　　時	平成２７年１２月１５日・１６日
目　　的	①指導と評価の一体化を図った授業の改善及び評価方法の工夫・改善について ②指定校事業中間報告について ③『学習成果報告会』『地域産業人育成連携協議会』視察
公開授業	食品科学科１年『農業と環境』　金　持　達　朗・山　下　　聡
	農業生産と環境保全の実際　乳牛の飼育利用
	生産科学科１年『農業と環境』　今　泉　純　一
	農業生産と環境保全の実際　動植物共通の性質と栽培・飼育
	食品科学科２年『食品化学』　　佐　藤　麻　美
	脂質とは
	生産科学科２年『馬学』　　塚　田　　新
	軽種馬の生態　馬の消化器
講　　演 研究協議	文部科学省 国立教育政策研究所　教育課程研究センター　教育課程調査官 初等中等教育局　児童生徒課　産業教育振興室　教科調査官 田　畑　淳　一 北海道教育庁学校教育局高校教育課産業教育指導グループ 指導主事　飛　谷　淳　一

（２）農業科における各科目の評価規準等の作成

指導と評価の一体化を図るため、農業科における各科目について、年間指導計画に則した単元毎の評価規準及び年間評価計画を作成し、生徒の学習状況を的確に評価するとともに、評価規準及び年間評価計画の改善を図った。

①　単元別評価規準

２　カボチャ栽培プロジェクト　　学習指導要領（２）農業生産の基礎

（１）単元の目標

①　カボチャの育成について、プロジェクト学習法を用いた体験的、探究的な学習を通して、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的な見方・考え方と実践力を育成する。

②　カボチャの種類と特性、育成環境及び栽培に関する基礎的な知識と技術を習得させる。

③　カボチャの栽培の計画・管理・評価の方法を通して、プロジェクト学習の進め方を習得させる。

（２）単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
カボチャの栽培について興味・関心をもち、播種から収穫までの栽培プロジェクトに主体的に取り組み、農業生物の育成と栽培環境について探究しようとしている。	カボチャの種類と特性、栽培環境の要素、利用及び計画・管理・評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	カボチャの栽培の基礎的な技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	カボチャの栽培の基礎的な知識を身に付け、栽培環境と関連付けて理解している。
主な評価方法			
・ワークシート ・授業参加意欲	・ワークシート ・実習取り組み状況	・実習取り組み状況 ・実習レポート ・パフォーマンステスト	・ワークシート ・定期考査

図２　単元別評価規準作成例

【作成科目】農業と環境・課題研究・総合実習・農業情報処理・作物・草花・食品製造
食品化学・農業経済・食品流通・生物活用・グリーンライフ
畜産科学（学校設定科目）・馬学（学校設定科目）・馬利用学（学校設定科目）
デュアル派遣実習（学校設定科目）

② 年間評価計画

実施予定日			実習	座学	行事	指導内容	評価の観点	関	思	技	知
5	27	火		1		播種方法について	播種方法についての基礎的な知識を身に付け、理解している。				○
5	30	金	1			栽培管理（播種）	播種方法についての基礎的な技術を身に付け、表現している。			○	
6	2	月		1		種子の観察	種子の構造・はたらきについて、理解し、適切に観察し、表現している。		○		
6	3	火	1	1		種子のはたらきと発芽条件 発芽観察	発芽条件についての基礎的な知識を身に付け、理解している。				○
6	10	火	1			苗の特性について（観察）	苗の構造について理解し、適切に観察・考察し、表現している。		○		
6	17	火	1			栽培管理（定植）	定植方法の基礎的な技術・知識を身に付け、活用している。			○	

図３　年間評価計画作成例

【作成科目】農業と環境・課題研究・総合実習・農業情報処理・作物・草花・食品製造
食品化学・農業経済・食品流通・生物活用・グリーンライフ
畜産科学（学校設定科目）・馬学（学校設定科目）・馬利用学（学校設定科目）
デュアル派遣実習（学校設定科目）

（３）「農業と環境」及び「デュアル派遣実習」記録簿の作成

現在活用している記録簿に生徒の観点別自己評価欄を設けるなど、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫・改善を図った。具体的には、授業ごとにプリントを配布し指導を行ってきたが、平成 27 年度より、学習履歴が蓄積されるよう、１年間の学習記録簿を作成した。記録簿には１時間ごとの自己評価等を記入する欄を設け、生徒自身が学習内容の実現状況を把握した上で、振り返りを図られるよう工夫している。

前時の取り組みを振り返られるように改善

思考を深められるよう、自分の考えを記載できるよう改善

図表などを充実し、理解しやすいよう改善

今日の授業で学んだこと（振り返り）、所見、観点の評価を入れ、授業評価に生かせるよう改善

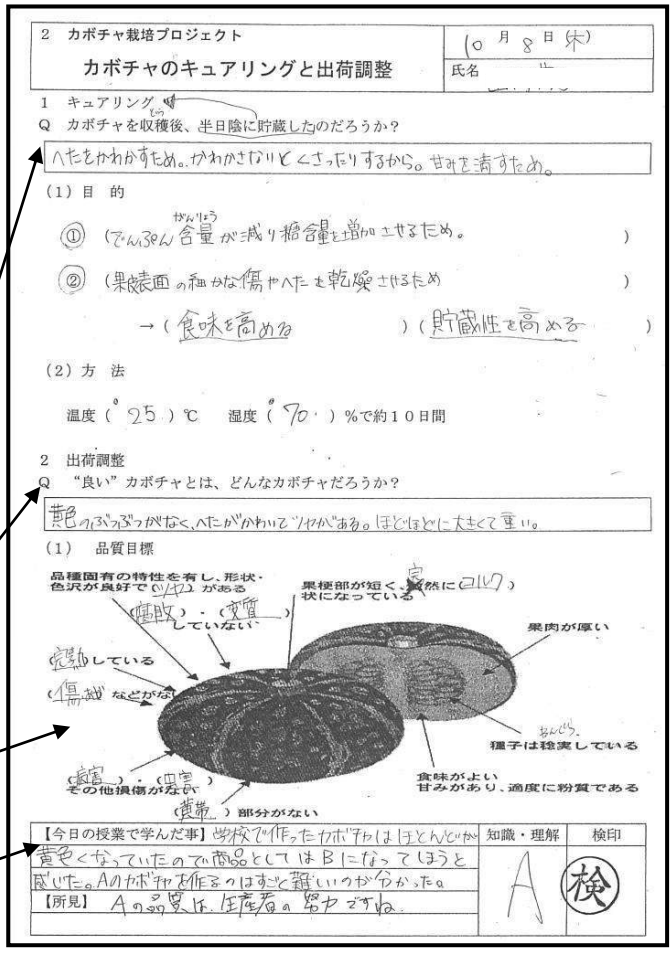

2 カボチャ栽培プロジェクト
カボチャのキュアリングと出荷調整
10 月 8 日（木）
氏名
1 キュアリング
Q カボチャを収穫後、半日陰に貯蔵したのだろうか？
へたをかわかすため。かわかさないとくさったりするから。甘みを増すため。
（1）目 的
① （でんぷん含量が減り糖含量を増加させるため。）
② （果皮表面の細かな傷やへたを乾燥させるため）
→（食味を高める）（貯蔵性を高める）
（2）方 法
温度（25）℃ 湿度（70）％で約１０日間
2 出荷調整
Q “良い”カボチャとは、どんなカボチャだろうか？
黄色のぶつぶつがなく、へたがかわいてツヤがある。ほどほどに大きくて重い。
（1） 品質目標
品種固有の特性を有し、形状・色沢が良好でツヤがある
果梗部が短く、自然にコルク状になっている
（腐敗）・（変質）していない
果肉が厚い
変色している
（傷・凹）などがない
種子は充実している
（病害）・（虫害）その他損傷がない
食味がよい 甘みがあり、適度に粉質である
（黄帯）部分がない
【今日の授業で学んだ事】学校で作ったカボチャはほとんどが黄色くなっていたので商品としてはBになってしまうと感じた。Aのカボチャを作るのはすごく難しいのが分かった。
【所見】Aの品質は生産者の努力ですね。
知識・理解 A
検印 検

図４　学習記録簿の例

（４）プロジェクト計画発表会及びプロジェクトまとめ発表会（校内実績発表会）の実施

プロジェクト学習における計画の過程を重視するため、４月にプロジェクト計画発表会を実施し、関係機関に助言をしていただき、充実させた。１１月に実施しているプロジェクトまとめ発表会（校内実績発表大会）は、町内の公民館で実施し、多くの地域住民や関係機関の方々に観ていただいた。

写真２　プロジェクト計画発表会

写真３　校内実績発表会

２　「農業と環境」における学習状況の適切な把握と授業改善に関する取組

（１）生徒に対するアンケート調査の実施（年度始め・年度末）

「農業と環境」において年度始めにアンケート調査を実施し、生徒の学習状況の現状把握を行い、授業の到達目標を明確にすることにより授業改善に役立てた。年度末にもアンケート調査を実施し、生徒の学習状況の変容を分析し、次年度の指導に生かした。

【質問項目】

関心・意欲・態度に関する質問

1	農業に興味・関心を持っていますか
2	食について興味・関心を持っていますか
3	環境について興味・関心を持っていますか
4	植物や家畜に興味・関心を持っていますか
5	植物・家畜の生理・生態に興味・関心を持っていますか
6	栽培・飼育について興味・関心を持っていますか
7	植物・家畜の利用について興味・関心を持っていますか
8	環境調査について興味・関心を持っていますか
9	環境保全について興味・関心を持っていますか
10	学校農業クラブ活動に興味・関心を持っていますか
11	プロジェクト学習について関心を持っていますか

思考・判断・表現に関する質問

1	農業の現在の諸課題について考えたいですか
2	食に関する諸課題について考えたいですか
3	環境問題について考えたいですか
4	栽培・飼育方法を生育状況を見て、判断し、管理したいですか
5	栽培・飼育方法を生理・生態を考えた上で管理したいですか
6	植物・家畜の利用について考えたいですか
7	植物・家畜などの観察をし、観察結果をまとめたいですか
8	植物・家畜などの生育調査をし、生育結果をまとめたいですか
9	学校農業クラブ活動に積極的に参加したいですか
10	意見発表で自分の意見をみんなの前で発表したいですか
11	プロジェクト学習をまとめ、発表したいですか

技能に関する質問

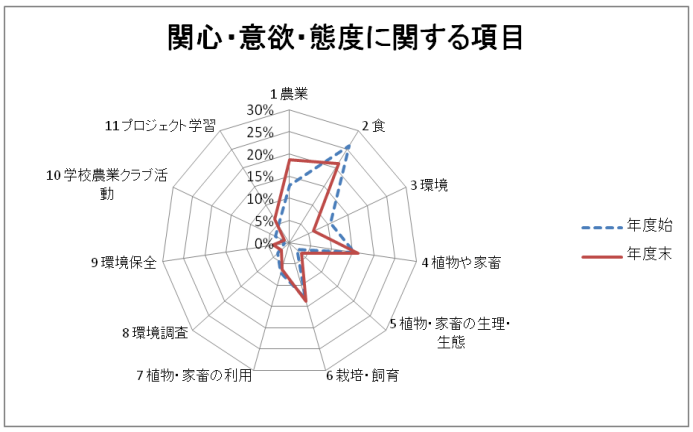
1	農業に関する見学や観察、統計・資料から情報を収集し、読み取り記録・整理しまとめたいですか
2	栽培・飼育に関する基礎的な技術を身に付けたいですか
3	植物・家畜の利用方法の技術を身につけたいですか
4	栽培・飼育の計画・管理・評価に関する技術を身につけたいですか
5	環境調査に関する技術を身につけたいですか
6	環境保全に関する技術を身につけたいですか
7	農業クラブ活動の意見発表を通して、発表する技術を身につけたいですか
8	農業クラブ活動の鑑定競技を通して、鑑定の資料を収集したいですか
9	プロジェクト学習を通して栽培・観察・調査記録をまとめたいですか

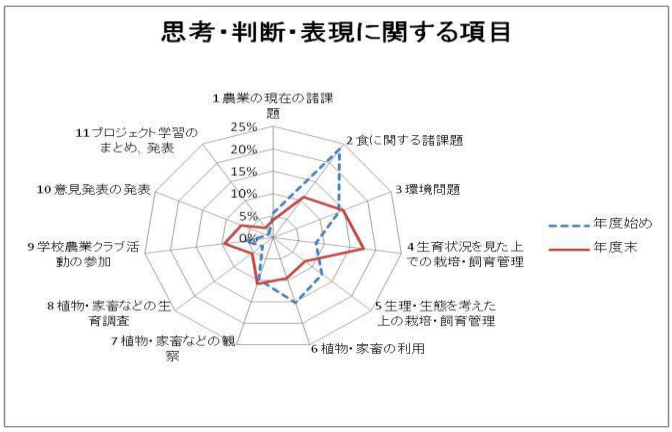
知識・理解に関する質問

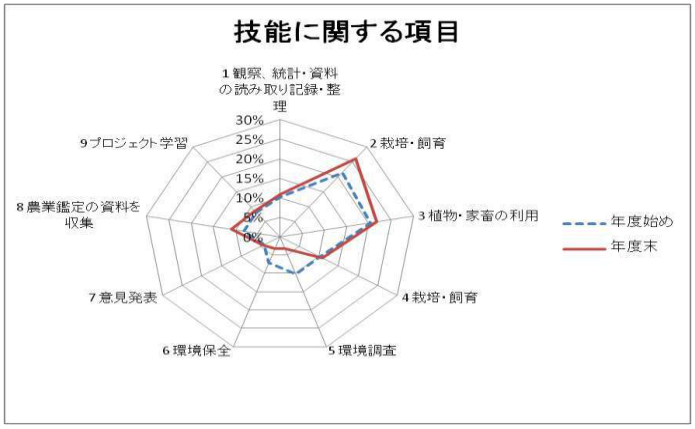
1	食と農業に関する基礎的な知識を身につけ、理解したいですか
2	農業と環境に関する基礎的な知識を身につけ、理解したいですか
3	植物・家畜の種類と特性に関する基礎的な知識を身につけ、理解したいですか
4	栽培・飼育に関する基礎的な知識を身につけ、理解したいですか
5	植物・家畜の利用に関する知識を身につけ、理解したいですか
6	環境保全に関する基礎的な知識を身につけ、理解したいですか
7	農業クラブ活動の鑑定競技を通して、鑑定の知識を身につけたいですか
8	プロジェクト学習を通してプロジェクト学習法を身につけ、理解したいですか

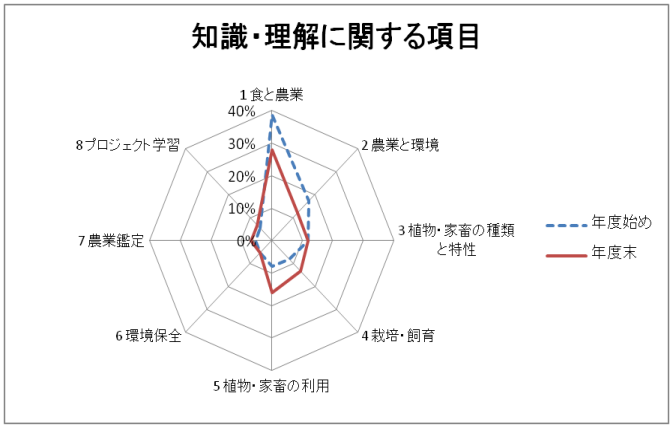
アンケート方法
年度末については、質問項目を『～できたか』という質問を行った。
解答は、質問に対して、『持っている』『少し持っている』『どちらでもない』『あまり持っていない』『持っていない』で解答。そのうち、『持っている』『少し持っている』の割合を以下のアンケート結果に掲載する。

①　平成２６年度入学生のアンケート結果　【食品科学科】

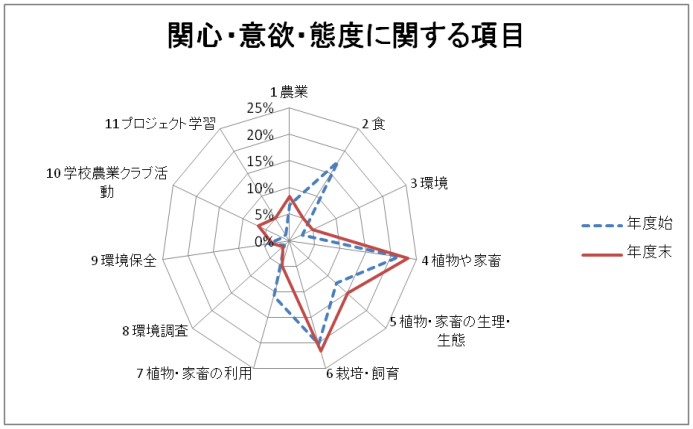


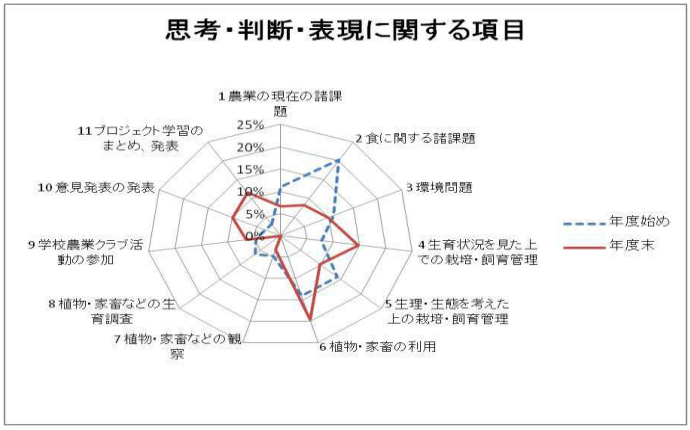


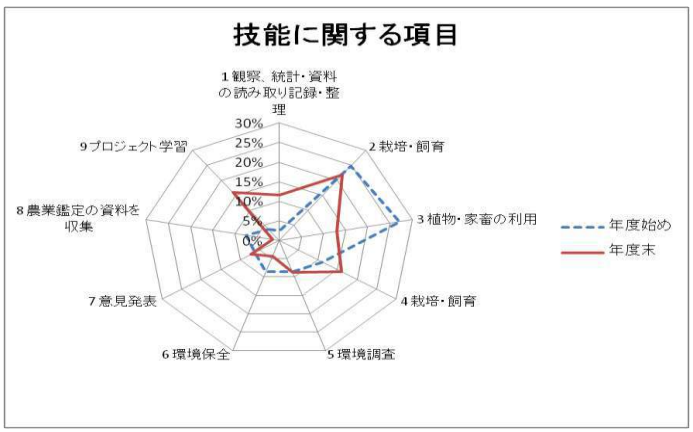


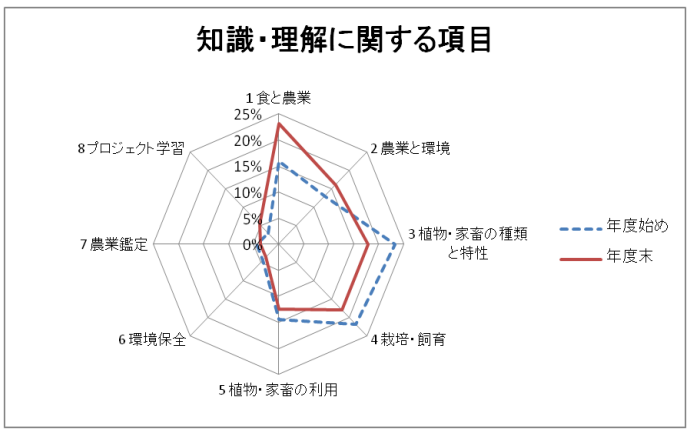


②　平成２６年度入学生のアンケート結果　【生産科学科】

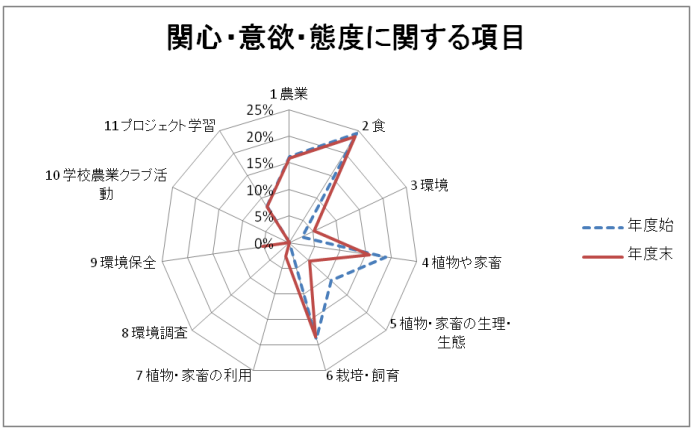


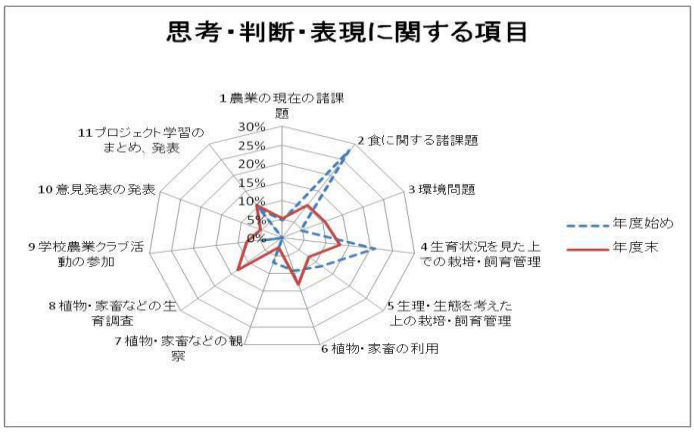


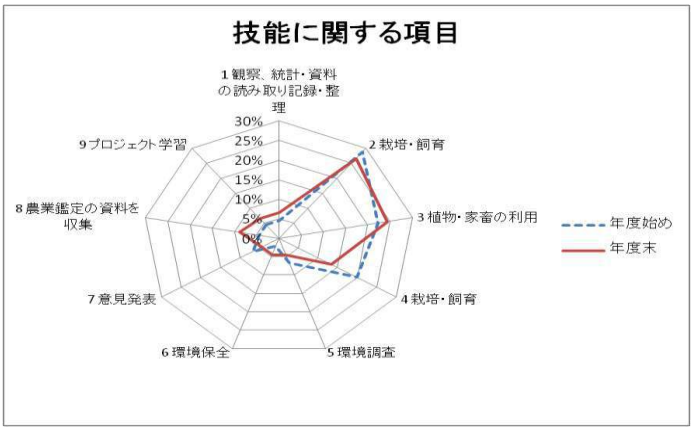


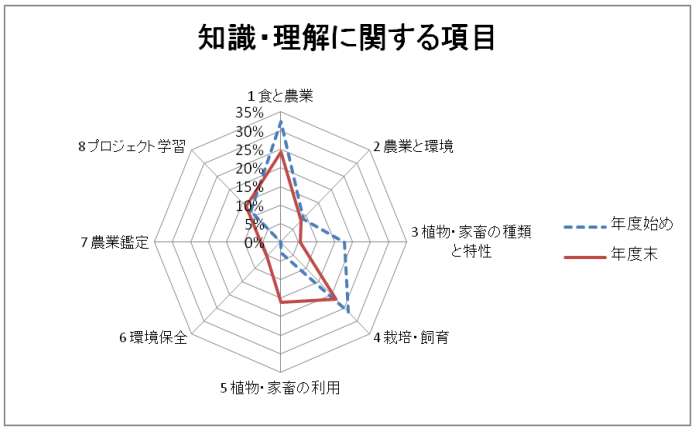


③　平成２７年度入学生のアンケート結果　【食品科学科】

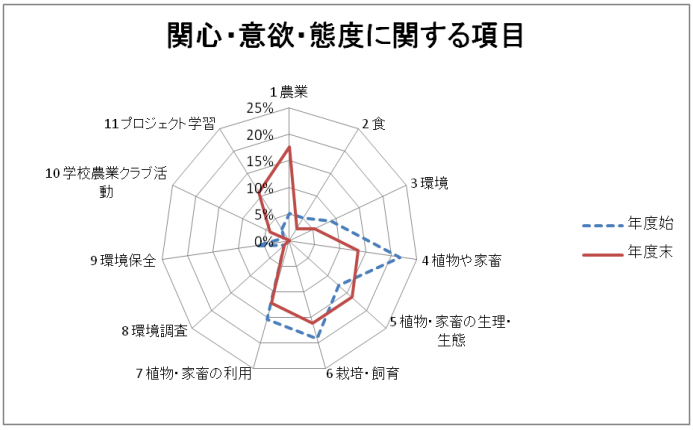


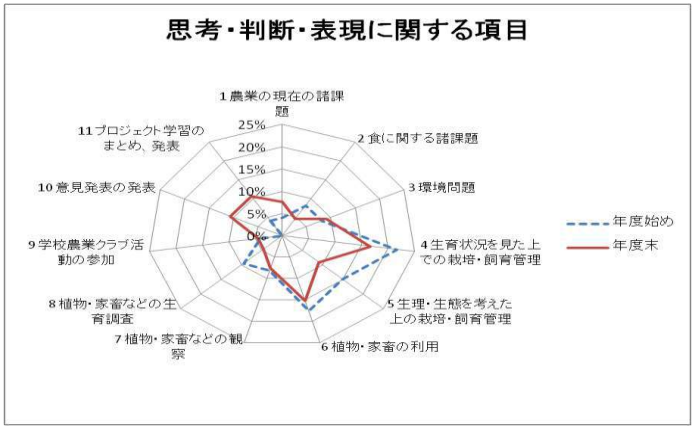


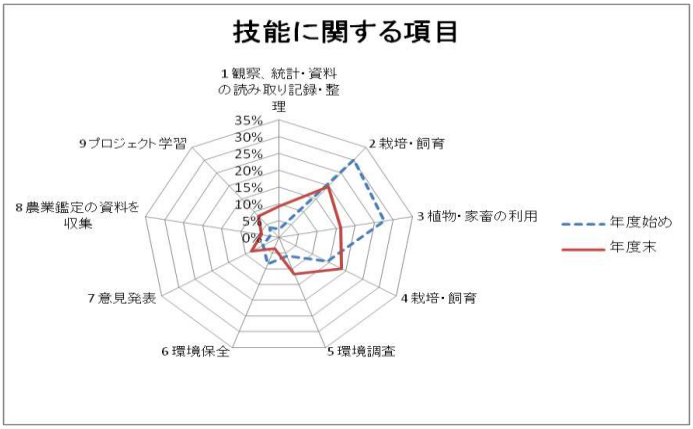


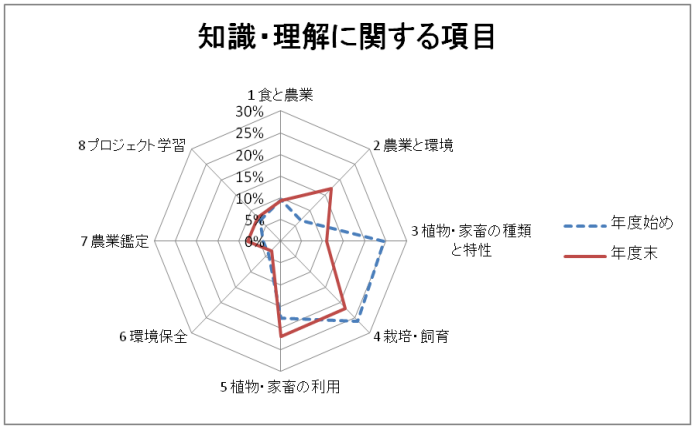


④　平成２７年度入学生のアンケート結果　【生産科学科】









（２）日本農業技術検定の指導方法の改善

昨年度より共通問題対策については、学科に問わず専門教科の教員が２時間、授業を行い、農業の全般的な知識を高めた。選択科目問題は各教科担任に一任し、指導をしたが定着には至らなかった。

そこで今年度は、共通問題の指導を強化するため、朝学習の時間を活用し、取り組んでいる。また、１年次でも朝学習で農業技術検定問題を取り入れ、１年次のうちから、検定に対する意識付けや知識の定着を図るため取り組んでいる。

写真４　農業技術検定の取組の様子

（３）平成 26 年度「北海道高等学校学力推進事業」学力テストについて

昨年度末に実施した「北海道高等学校学力推進事業」学力テストの結果をもとに、授業改善等に役立てた。

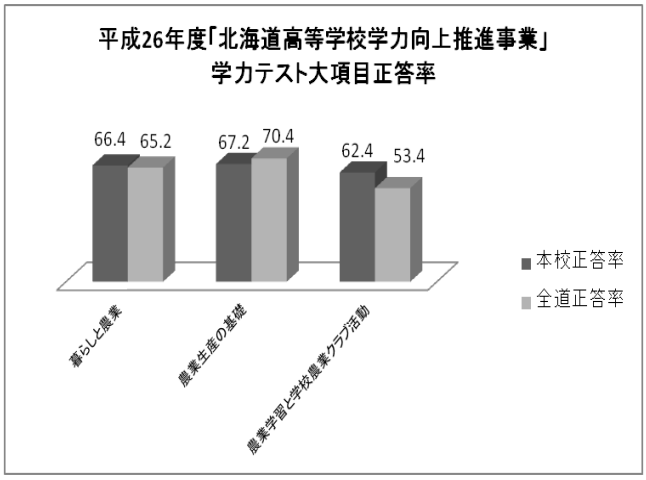


図５　平成 26 年度「北海道高等学校学力向上推進事業
学力テスト大項目正答率

３　地域関係機関と連携した農業教育の改善に関する取組

（１）『地域産業人育成連携協議会』の設置

地域の農業等を担う人材の育成・確保のシステムを構築および充実させるため、年間２回の総会を開催し、具体的な方向性について協議・検討した。

①　設立趣意

農家戸数の減少や農業従事者の高齢化が進行する中、日高管内の農業や農村が今後とも活力を維持し、さらに持続的に発展していくには、地域農業はもとより地域産業を担う意欲と能力のある人材の育成・確保が重要かつ喫緊の課題となっています。

管内では、農業就業人口（平成 22 年度）のうち 60 歳以上が占める割合が 46.5%になっていることから、管内農業が安定的に発展するには、農業を担う若い人材の一層の確保が不可欠となっています。

一方、静内農業高等学校は、これまで地域農業はもとより地域産業を支える数多くの人材を輩出してきましたが、近年、他産業への就職等進路の多様化が進み、特に農業に就業する人材は従前に比べ大きく減っていることから、一人でも多くの農高生が地元での就農や地域産業界の就職を志向するような環境の整備が求められています。

このため、静内農業高校と地域関係機関が、相互の連携協力のもと、地域農業や地域社会の持続的かつ安定的な発展に寄与する産業人の育成を図る方策を協議し実践することを目的として、「地域産業人育成連携協議会」を設立するものです。

② 地域産業人育成連携協議会イメージ図

③ 事業計画

ア 農業関係への就職（後継・新規就農・農業従事者）に向けた意欲向上及び就農・就職のための支援事業

主な事業	時期	対象者	場所
デュアル派遣実習受け入れ（農場・牧場）	５～10 月	３年生選択者	受入農場・企業
農業講演会	12 月	全学年全員	本校
農業教員研修会（実技研修・公開授業見学）	10 月	農業科教員	本校
外部機関と連携した実験・実習	随時		本校他

イ 地域産業への就職に向けた意欲向上及び就職のための支援

主な事業	時期	対象者	場所
デュアル派遣実習受け入れ（加工・一般）	５～10 月	３年生選択者	受入企業
インターンシップ受け入れ	６月	２学年全員	受入企業
企業派遣実習（長期休業）	長期休業	３学年選択者	受入企業
地域産業講演会	10 月	全学年全員	本校

ウ　本校の施設・設備等や専門職員等や外部人材等の活用を図り、地域の青年農業者や農業理解者の育成支援

主な事業	時期	対象者	場所
小高連携学習	６月～11 月	町内小学生	本　　校
食育学校	６月～11 月	町内小学生	本　　校
地域住民へ向けた講習会	７月	町コミュニティー運動協議会	本　　校
研究発表（校内実績発表大会等）	12 月	関係機関	本　　校

④　協議会構成

ア　役員　北海道静内農業高等学校校長・新ひだか町農業担い手育成支援協議会会長
　　しずない農業協同組合組合長

イ　会員　新ひだか町・日高農業改良普及センター・北海道教育庁日高教育局
　　新ひだか町農業担い手育成支援協議会・しずない農業協同組合
　　みついし農業協同組合・新冠町農業協同組合・新ひだか町商工会
　　北海道静内農業高等学校教育振興会・北海道静内農業高等学校

（２）生徒の産業人としての自覚を促す講演会の実施

地域農業や地域社会の持続的かつ安定的な発展に寄与する産業人としての自覚を促すため、外部講師を招いて講演会を実施した。

①　平成 26 年度　講演会

ア　対象　全校生徒

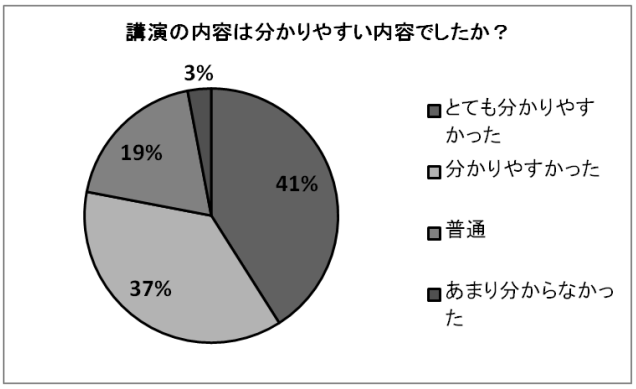
イ　期日　平成 26 年 12 月 3 日

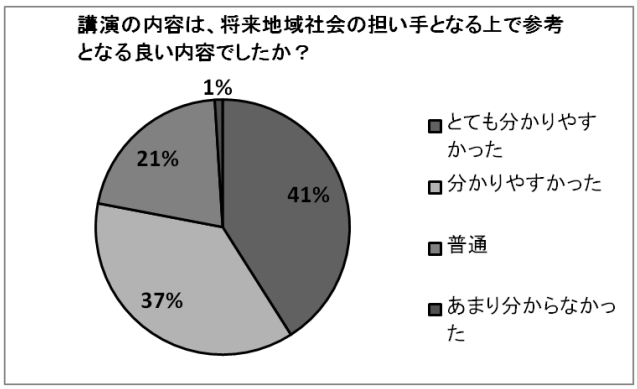
ウ　講師　ノーザンファーム天栄場長
　　広　瀬　春　行　氏

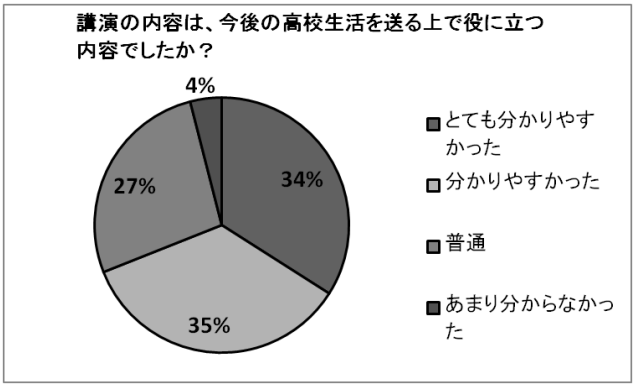
エ　内容　①「世界に通用する強い馬づくり」
　　②体験型公園「ノーザンホースパーク」
　　③高校生に期待し、望むこと

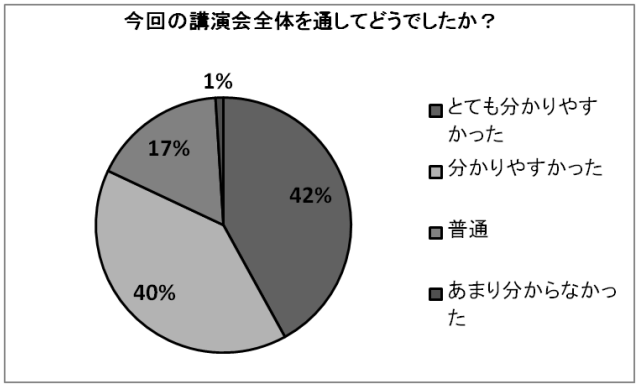
写真５　講演会の様子

オ　生徒アンケート









② 平成 27 年度　学科別講演会

ア　対象　生産科学科生徒

イ　期日　平成 27 年 11 月 5 日

ウ　講師　木村大作農園代表

木　村　大　作　氏

エ　内容　①農業への想い

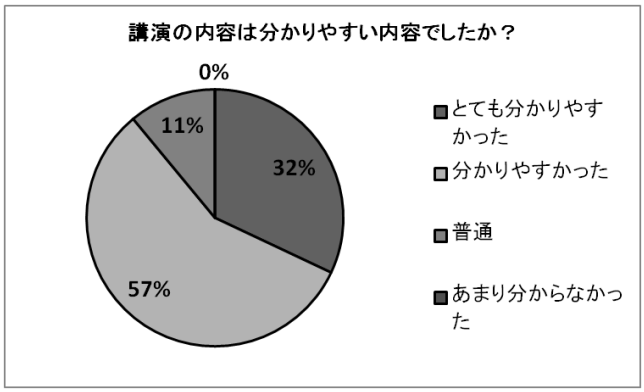
「土づくり・作物づくり・仲間づくり」

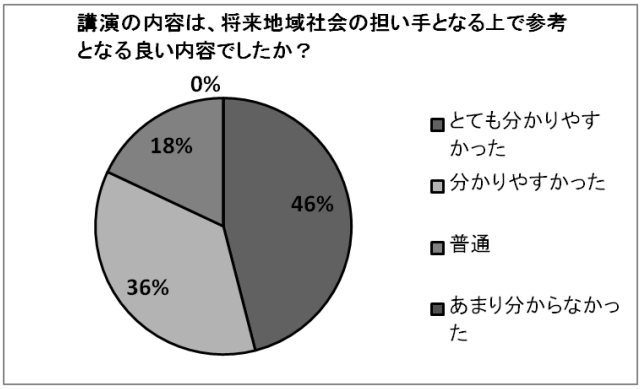
②施設園芸「大作農園」

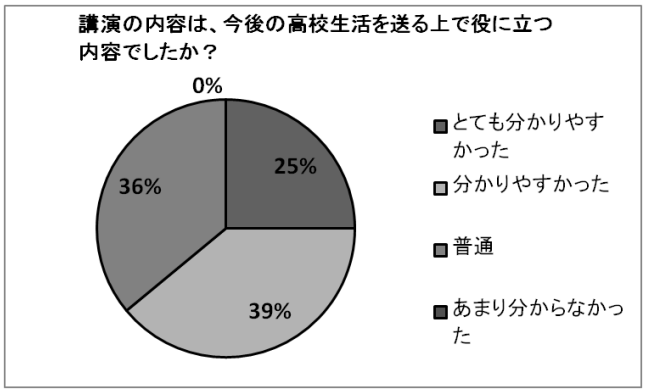
③高校生に期待し、望むこと

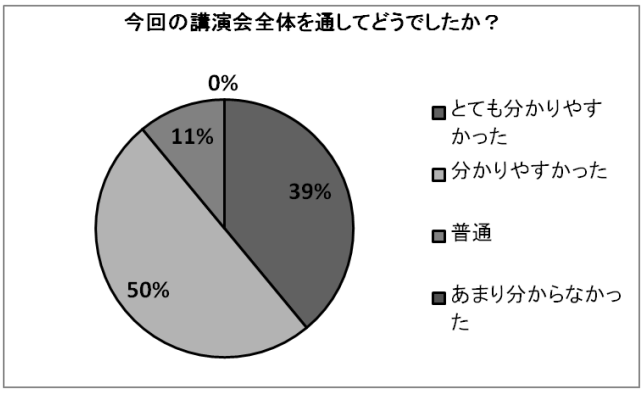
写真６　講演会の様子

オ　生徒アンケート









③ 平成 27 年度　学科別講演会

ア　対象　食品科学科生徒

イ　期日　平成 27 年 11 月 5 日

ウ　講師　株式会社　高橋牧場代表取締役

高　橋　　守　氏

エ　内容　①酪農への想い

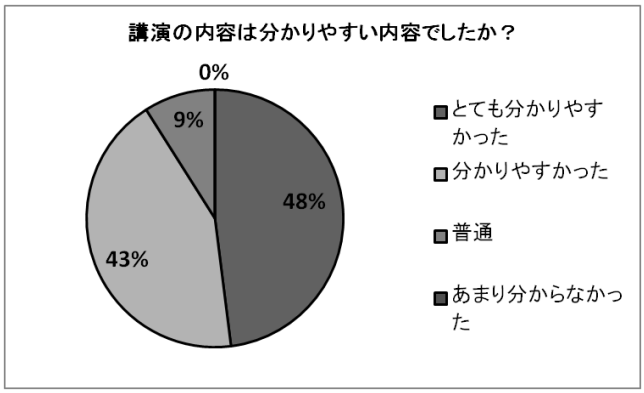
「土づくり・草づくり・牛づくり」

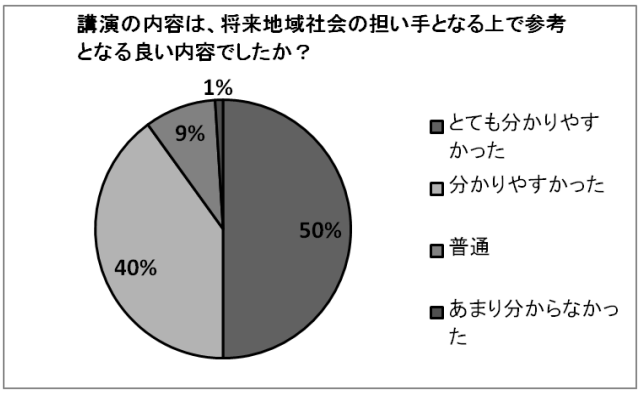
②生産加工販売施設「ニセコミルク工房」

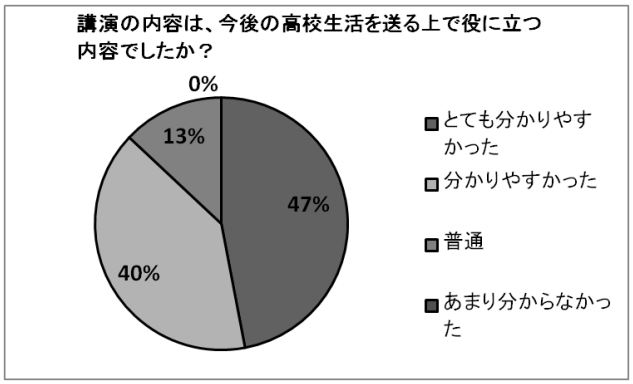
③高校生に期待し、望むこと

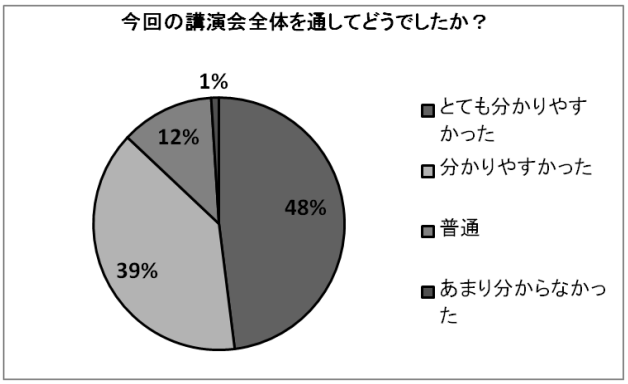
写真７　講演会の様子

オ　生徒アンケート









④　平成 27 年度　全体講演会

ア　対象　全校生徒

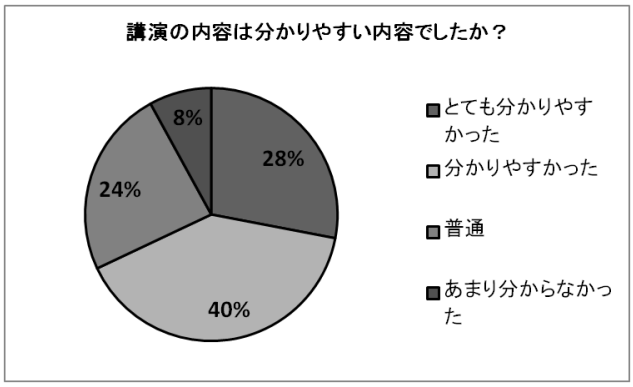
イ　期日　平成 27 年 12 月 11 日

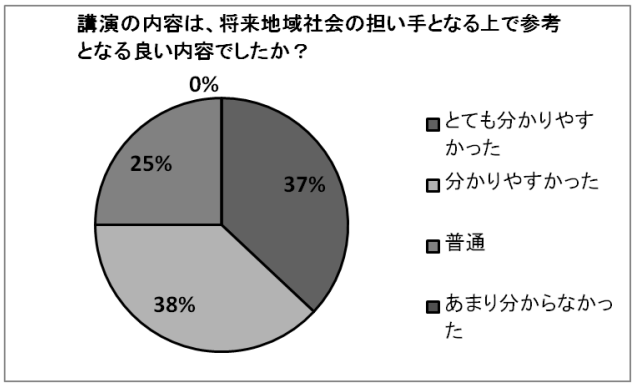
ウ　講師　独立行政法人
家畜改良普及センター新冠牧場
場長　大　森　正　敏　氏

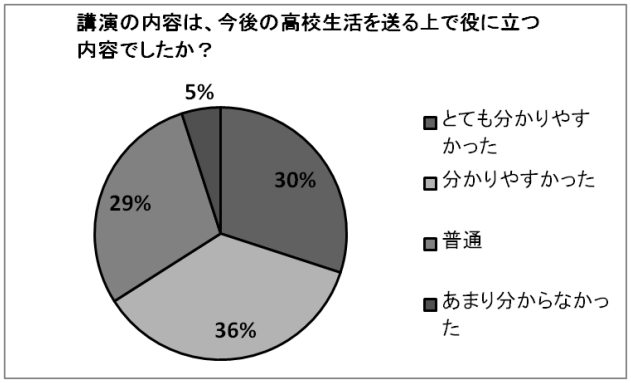
エ　内容　①現在の日本の状況と農業者として想い
②家畜改良センターでの取り組み
③高校生に期待し、望むこと

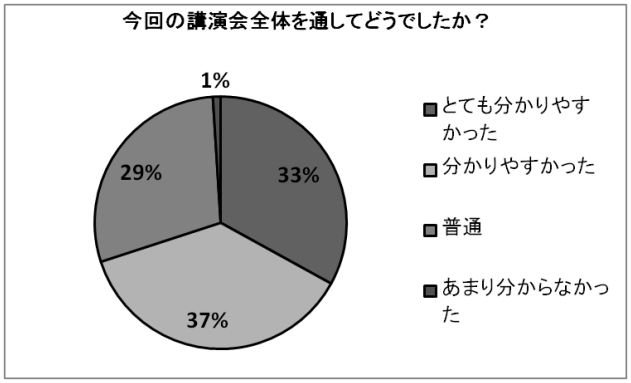
オ　生徒アンケート

写真８　講演会の様子









（３）デュアル派遣実習活動成果報告会の実施

学校設定科目「デュアル派遣実習」の活動成果報告会を、実習受け入れ先である農場や牧場、企業の経営者、職員を招いて公民館で実施した。合わせて、１学年職業調べ報告と２学年インターンシップ報告も行い、本校の進路活動を中心とした学習報告を行った。

写真９　学習成果報告会の様子

写真 10　学習成果報告会の様子

Check　研究の成果と課題

1　成果

（1）　生徒対象のアンケート調査結果を分析したことにより、生徒の学習状況を詳細に把握するとともに、授業の到達目標を明確にすることができた。

（2）　農業科の各科目における評価規準や評価方法についての工夫･改善を行ったことにより、生徒の学習状況を詳細に把握することができた。

（3）　科目「農業と環境」及び学校設定科目「デュアル派遣実習」における記録簿の工夫・改善を行ったことにより、生徒の学習状況を詳細に把握することができた。

（4）　評価方法の工夫・改善に関わる校内研修会を実施したことにより、教職員の「指導と評価の一体化」についての理解が深まった。

（5）　日本農業技術検定に向けた指導の工夫・改善を図ったことにより、生徒の基礎的･基本的な知識や技術の定着が図られた。

（6）　関係団体との連携を深めたことにより、地域の農業等を担う人材の育成･確保のシステムを構築するための組織である「地域産業人育成連携協議会」の設置に向けた準備を整えることができた。

（7）　地域の企業等において、デュアル派遣実習を実施や、地域の人材を活用した講演会等を開催したことにより、地域の産業に対する生徒の興味・関心が高まるとともに、理解が深まった。

2　課題

（1）　生徒対象のアンケート調査を継続実施するとともに、調査項目等について継続的に見直する必要がある。

（2）　作成した評価規準に基づいて適切に評価するとともに、生徒の学習状況を踏まえて、評価規準を継続的に見直す必要がある。

（3）　思考力・判断力・表現力等を育成に向け、科目「農業と環境」、学校設定科目「デュアル派遣実習」の記録簿の内容を継続的に見直す必要がある。

（4）　座学と実験・実習を密接に関連付けた指導の充実を図るため、プロジェクト学習における効果的な指導に関する研修会を実施する必要がある。

（5）　「地域産業人育成連携協議会」を効率的に運営するため、具体的な運営方針や運営計画等を立案する必要がある。

（6）　授業に外部講師を招くなど、学校教育に地域の教育力を活用するとともに、地域の関係団体等に授業を公開するなど、地域に対して特色ある教育活動を紹介する必要がある。

（7）　日本農業技術検定に向けた指導の改善・充実に継続的に取り組む必要がある。

Action　指定期間終了後の取組

（１）　生徒対象のアンケートを実施し、学習状況の現状把握と授業の工夫・改善を行う。
（２）　評価方法の工夫・改善等に関する校内研修を実施するとともに、各科目における評価規準の見直しを継続的に行い、指導と評価の一体化を図る。
（３）　各科目で作成した記録簿の工夫・改善及び観点別学習状況の評価の充実を図る。
（４）　地域農業等の人材育成・確保のシステムを構築するために、「地域産業人育成連携協議会」の事業や活動内容の改善・充実を図る。
（５）　地域教育力を積極的に活用し、座学と実験・実習を密接に関連付けたプロジェクト学習を推進する。